

『神の愛に仕える人』 コリント人への手紙第二3章1～11節 2016.2.28(礼拝説教より)

『主はすべてのものにつくしみ深く、そのあわれみは、造られたすべてのものの上にあります。主よ。あなたの造られたすべてのものは、あなたに感謝し、あなたの聖徒はあなたをほめたたえます。』 詩編 145:9～10

◆人生を必ず幸せにする確信が2つある。第一は、地上の生涯を終えたら、必ず天国(御国)に行けるという確信、第二は、人生の全てのマイナスを必ずプラスにさせていただけるという確信！パウロは、この確信をもって生き抜き、様々な課題と向き合った。

◆当時、偽りの教師ではない証明には「推薦状」が必要だったが、パウロにはなかった。しかし彼は、自分が宣べ伝えた福音を信じ、罪から解放され、人生を変えられたコリントの信徒達、あなたがたこそ、福音の正しさの証明であり、その生活こそが、誰の目にも明らかなキリストの証なのだと言った(3節)。福音を信じて罪赦された者は、人生の様々な問題と明るく前向きに向き合い、色々な場面で感謝して生きて行く人へと変えられていく！

◆その人は、自分に誇るものが何もなく、諸問題の解決・解消、成功と祝福の全てが神のお陰だと知り、本当の幸せの根拠に気づく！パウロは4章で、『四方八方から苦しめられ、途方にくれ、迫害され、倒されたが、窮せず、希望を失わず、滅びず、あらゆる苦しみに慰めがあった』と振り返る。全ての苦難に慰めがある！という驚くべき救いの人生は、神の憐れみと慈しみの証なのである！その神に全ての栄光をお返しする人生は、威張らず自慢せず、誰をも裁かず見下げず、謙虚で最高に祝福された人生である！世界の誰もが認める天才音楽家バッハの全作品には、JJ(イエスよ助け給え！)、SDG(ただ神に栄光あれ！)が記される。

◆「文字(古い契約)は殺し、御霊(新しい契約)は生かす(6節)」とは、神の絶対的聖さと正しさ(十戒)の前に、人は罪深く裁かれる存在！しかし、十字架による救いこそが、人を生かす唯一の道、の意。「～あるべし！」は、人を追い込み、裁くのみ！神が造られた最高の自分・最高の祝福に至る唯一の方法は、「努力」ではなく「関係」による。私たちの罪を身代りに背負って十字架で死に、復活されたイエス様は、私たちと新しい契約(互いに愛し合う)を結ばれた。それは、正論を突きつけて潰し合うのではなく、神の愛と結ばれ、赦され、喜んで重荷を負い合う「関係」になること！その人は、神と人を愛して共に生きていく。

★今週、あなたを通して神の憐れみと慈しみが証できますように！